

社会 その1 (4枚のうち)

15	受験番号
中	

次の問題文を読んで、後の問いに答えなさい。

皆さんは、「すべての道はローマに通じる」という言葉を知っていますか。今から約2000年前に地中海周辺の各地域を統一したローマ帝国はその後400年にわたって大国であり続けましたが、この国の特徴の一つが都のローマから帝国の全土に伸びる道路網を築き上げたことです。上にあげた言葉は、ローマ帝国の支配が道路網と深く関係していたことをよく表しています。ローマ帝国に限らず、世界各地で栄えた多くの大国は、その領土にまたがる道路網を建設し、支配のために利用していました。これらの道路網は基本的に政治や軍事上の目的のために建設されましたが、それらは同時に、国内での人びとの移動やさまざまな品物の流通に利用され、経済などの面でも大いに役立っていました。もちろん、世界各地では道路のような陸上交通だけでなく、古くから河川や海を通じた水上交通も発達し、社会の発展に貢献してきました。そこで今日は、陸上交通を中心にこれまでの日本における交通網の整備とその今後について考えてみましょう。

日本では7世紀から8世紀にかけての時期に法律や土地制度、税制などが制定されて天皇を中心とする政治体制がつくられました。日本全土は多くの国に分かれ、それらは都の近くの5か国(畿内)と地域別に7つの道(七道)に区分されました。そして都から七道のそれぞれに伸びる同じ名前の幹線道路(駅路)が建設されましたが、これらの駅路は地形が複雑であってもなるべく直線状に通るようにつくられ、いずれも30里(約16km)ごとに駅家が置かれ5~20頭の馬が用意されていました。駅路の遺構は各地で発掘されていますが、それらによると幅が約6~12mで両側に側溝が設けられていました。これらの駅路は役人や兵士たちの移動や、各国からの品物を都に運ぶのに利用されましたが、中でも都と北九州の大宰府を結ぶ山陽道はただ一つの「大路」として特に重視されていました(図1)。

中央政府による駅路の整備は平安時代中ごろからしだいに行われなくなりましたが、かつての駅路は一部で経路が変更されながらその後も幹線道路としての役割を果たしていました。その一方で、駅路以外のさまざまな道路も開かれ、それらを通じた陸上交通も発達していきました。さらに、河川交通や海上交通も各地で盛んになり、日本における国内交通は、時代とともにしだいに発展していったのです。

江戸時代になると、幕府は交通網の整備に力を入れました。幕府は五街道を中心に江戸を起点とする幹線道路を整備して陸上交通網をつくり上げる一方、大坂や江戸と各地を結ぶ海上交通網も整備しました。こうした幕府の政策もあって日本国内での人の移動や物の流通はいつそう盛んになっていきました。しかし幕府は五街道を直接の管理下に置くなど交通に対する厳しい統制も行っていました。

明治時代になると、政府が主導する形で近代化のための改革が行われましたが、その一つが交通に関するものでした。明治政府によって陸上交通の柱と位置づけられたのは鉄道で、最初は政府の投資による建設で1872(明治5)年に営業運転が開始され、その後は民間企業による建設で各地の鉄道が開通していきました。1906(明治39)年に鉄道国有法が制定されて国内の主要鉄道は原則として政府によって運営されることになり(国鉄)、民間の鉄道会社は主に東京や京阪神などの大都市圏での鉄道経営にあたりました(私鉄)。20世紀に入ってしばらくすると自動車が普及しはじめ、そのため道路の整備も進められましたが、輸送力や所要時間などの面ですぐれていた鉄道は20世紀半ばすぎまで国内交通の主役であり続けました。また、日清戦争や日露戦争などで日本列島以外の地域に植民地を獲得すると、その地でも鉄道が建設されました。鉄道は日本による対外進出や植民地支配においても大いに利用されたのです。

第2次世界大戦後になると、日本国内の交通のあり方はしだいに変わっていきました。鉄道はしばらく陸上交通の中心でしたが、自動車の普及がさらに進み自動車産業も発展したために自動車交通の重要性が高まりました。また、高度経済成長とともに、鉄道交通と自動車交通のどちらでも新しい動きが起こりました。さらには、航空機の発達や、日本と国際社会との関係が深まっていったことなどにより航空交通の占める割合も増大し、国内各地の空港の整備も進められました。しかし、こうして発展してきた日本の国内交通も、1970年代ごろからさまざまな問題が現れてきました。たとえば鉄道に関しては、経営が行きづまっていた国鉄は1987年に分割・民営化され、JR各社に移行しました。数十年前から計画が立てられた新幹線や高速道路の建設なども、21世紀に入ってから一部で見直す動きがでてきています。それでも交通網の建設は計画通りに進められており、交通網のさらなる進化を追い求める動きすら見られます。さらに現代は、いちど建設した交通網は維持・管理し続けなければなりません。こうしたことをふまえ、直面する諸問題を解決しながら必要な交通網の整備を続けるためにどうすべきかが、現在の私たちに問われていると言えるでしょう。

社会 その2 (4枚のうち)

15	受験番号
中	

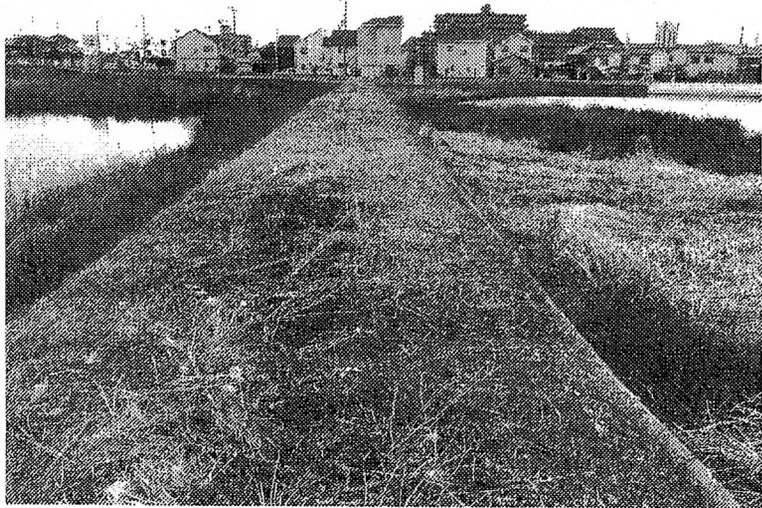


写真 古代に山陽道が通っていた跡（兵庫県明石市）
 おく
 奥の住宅地の所からは2001年に道路遺構が発見されました。

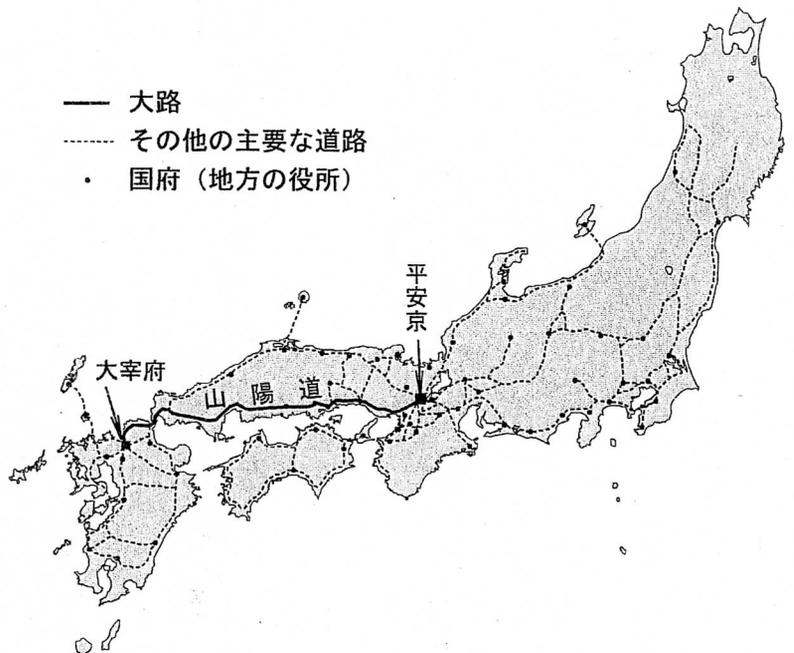


図1 平安時代前期の幹線道路
 参考：岸本道昭『山陽道駅家跡』同成社、2006年

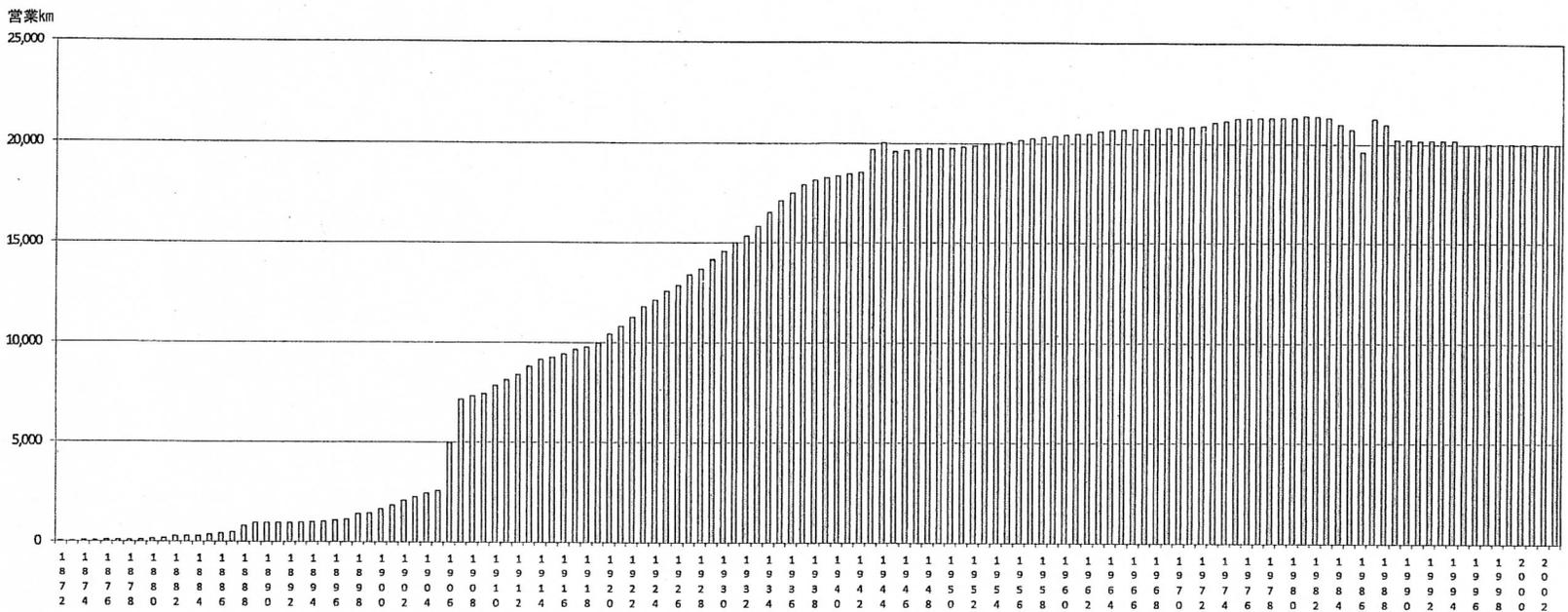


図2 鉄道（国鉄およびJR）の総延長、1872～2003年

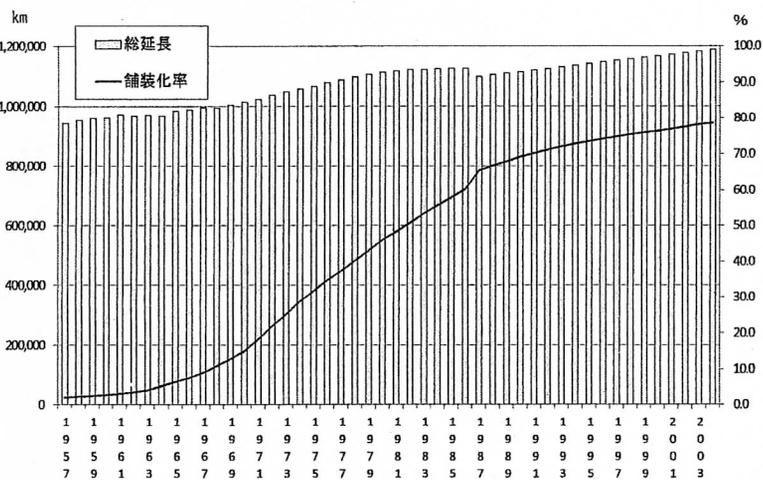


図3 道路の総延長と舗装化率、1957～2004年

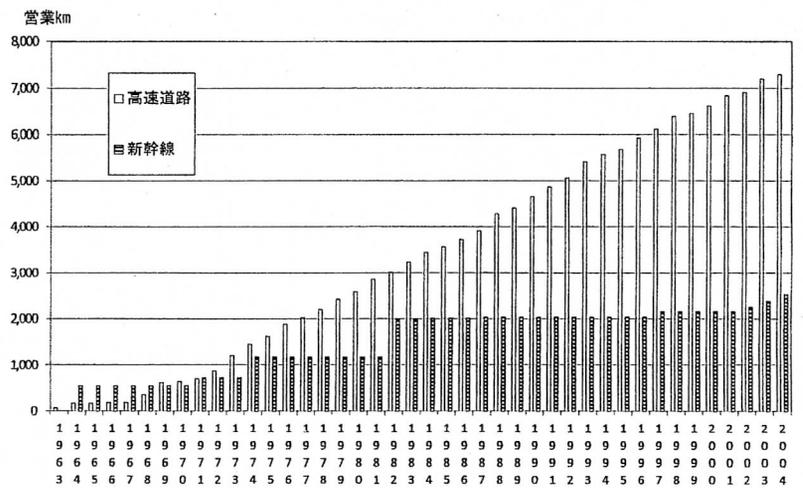


図4 新幹線と高速道路の総延長、1963～2004年

(図2～4 総務省統計局「日本の長期統計系列」などにより作成)

社会 その3 (4枚のうち)

15	受験番号
中	

問1 7世紀から8世紀にかけて制定された税制では、人びとは3種類の税を納めなければなりませんでした。

(あ) 上の3種類の税のうち、租以外の2つのものをそれぞれ漢字1字で書きなさい。

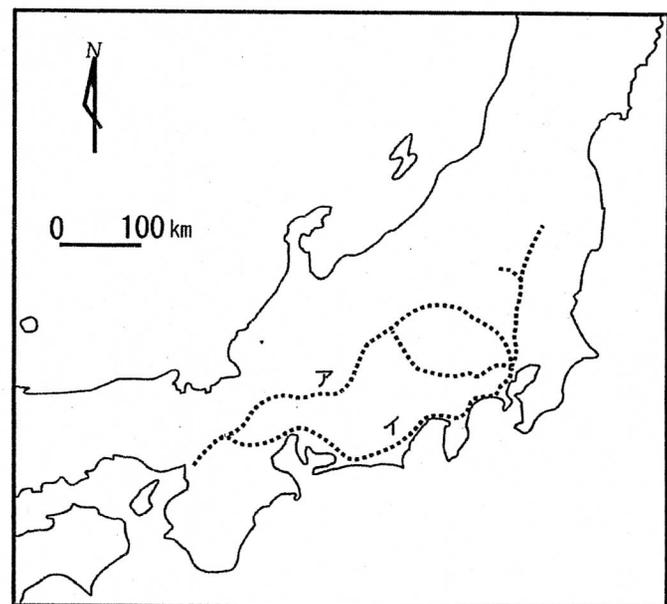
(い) 駅路は、(あ)で答えた2つの税と、どのような関係がありますか。

問2 山陽道が古代の中央政府によって特に重視されたのはなぜですか。

問3 右の地図のア・イは、江戸時代の五街道のうちの何ですか。

ア

イ



問4 幹線道路の整備は、江戸幕府の支配にとって必要なものでした。それはどうしてですか。

社会 その4 (4枚のうち)

15	受験番号
中	

問5 明治政府が鉄道を陸上交通の柱と位置づけたのはなぜですか。政府によって行われた近代化政策との関連を考えながら書きなさい。

問6 日露戦争後に結ばれた条約で、日本がロシアから獲得した鉄道は、当時何と呼ばれていた地域にあったものですか。

問7 第二次世界大戦後、鉄道と自動車交通は、それぞれどのように変わっていききましたか。図2・3・4を参考にして書きなさい。

問8 問題文にあるように、近年、さまざまな問題が現れていますが、交通網の整備はそれまでと変わらないやり方で進められています。交通網に関して近年現れてきた問題と、これから求められる交通網の整備のあり方について、君の知っていることをまとめて書きなさい。